

Title	言語文化学 Vol.2 編集後記
Author(s)	
Citation	大阪大学言語文化学. 2 p.148-p.148
Issue Date	1993-03-31
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/78191">https://hdl.handle.net/11094/78191</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 編集後記

『大阪大学言語文化学』の第2号が、ようやく形を整えて刊行される運びとなった。言語が文化の体系として、また文化が言語の体系として、いよいよ深く認識されるようになり、言語をモデルとする考察の方法が、ますます人文的な科学の中核に位置するものとして理解されてくるようになると、「言語文化学」というものの重要さが改めて意識されてくるのである。平成5年度で、大阪大学大学院言語文化研究科の博士課程も、完成年度に達することになる。学生においても、教授陣においても、言語文化学の領域を多方面に広げ深めてゆく個性的な研究が、着実に推進されていて大変に心強く思うのであるが、この第2号は、そのことを十分に反映しえているかどうか、大方の御賢察に待ちたい。第1号と同様に、この第2号も大学院の助手諸君と院生諸君の手によって、編集から印刷にいたるまでの作業をひきうけていただいた。特に、大学院言語情報科学講座の三木邦弘助手には、第1号に続いて大変に御尽力を願った。三木氏が本年4月に名古屋の相山女学園大学に転出されたあと、同氏の貢献度がいかに大きかったかを私どもは痛感した。本号の編集に御協力いただいた他の方々にも、改めて感謝する次第である。(藤田)

赤井慧爾、今井光規、岩根久、大高順雄、岡野輝男、北村卓、木村茂雄、高岡幸一、田中望、津田葵、中西暉、中埜芳之、成田一、西垣内泰介、服部典之、春木仁孝、平田達治、深澤一幸、溝邊敬一、渡部眞一郎。  
(敬称略)

1993年3月  
編集委員会

第2号は、富士通製 S-4/2 上の jL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を使用して編集され、沖電気製 Micro-Line801PS で出力されたものを、そのまま写真製版で印刷した。(表紙を除く。)